

CRADELE 4



49 44924 42220 2

バイククレードル4は、S字型に曲がったアームによりクレードル3よりも自転車を支柱から離すことで、支柱を壁面により近づけられるタイプです。

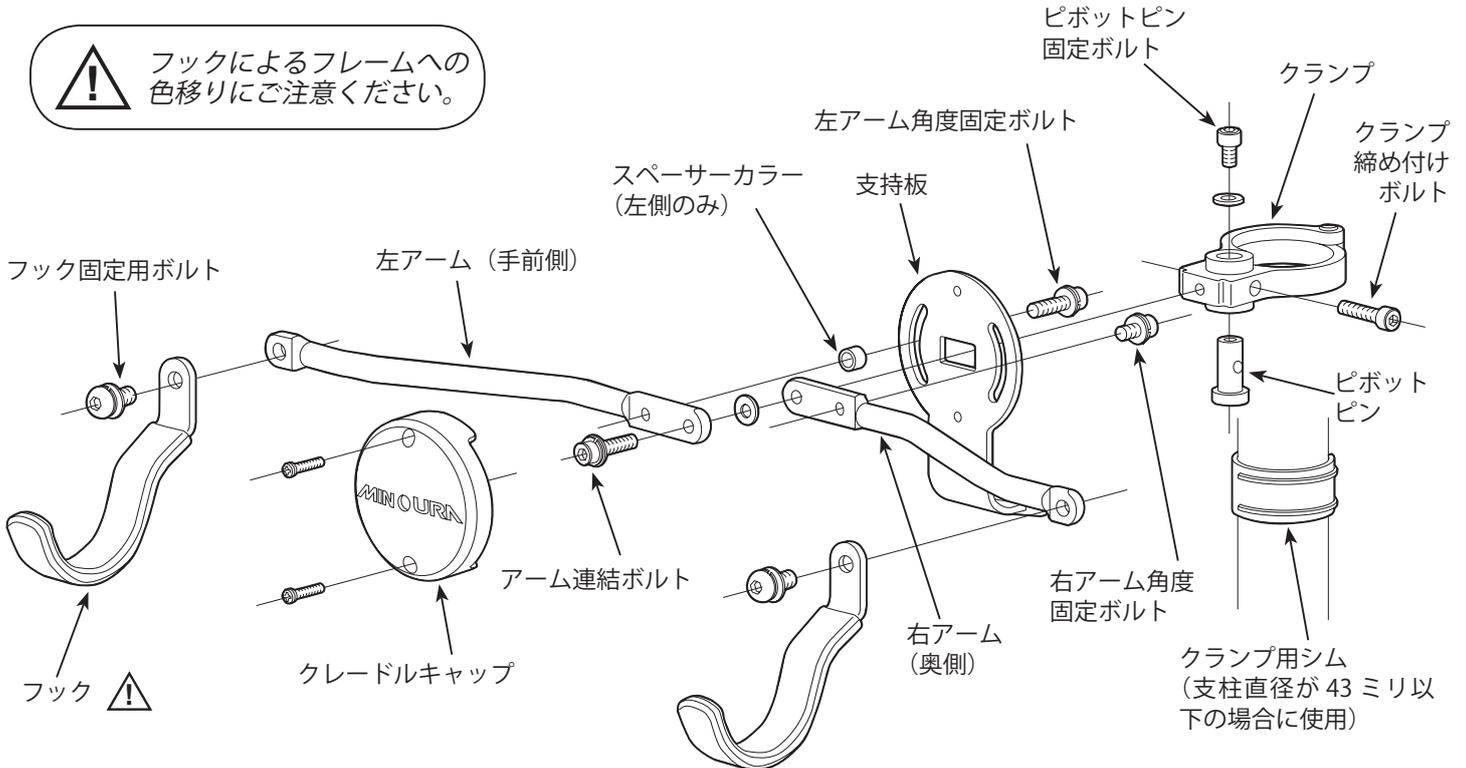
**<適用径：38mm～45mm>**

40mm = バイクタワー・ピット上支柱用など

45mm = タワー・ピット下支柱, P-500/P-600/P-700 支柱用など



フックによるフレームへの色移りにご注意ください。



### 製品保証期間

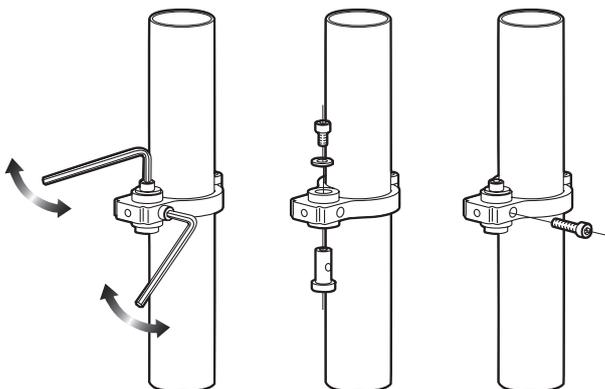
お買い上げ後、1年間です。ご購入の証となるレシートなどを保管しておいてください。

### クレードルの装着のしかた

必要な工具：M5 六角レンチ (ご自身でご用意ください)

**1**

まずクランプを開くため、ピボットピン・ピボットピン固定ボルト・クランプ締め付けボルトを M5 六角レンチで取り外します。



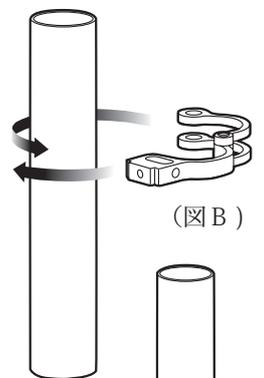
(図A)

**2**

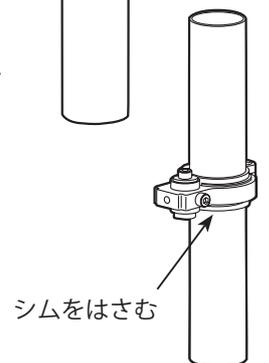
クランプを大きく開き支柱に巻き付けます。太い1本アーム側が右側に、細い2本アームが左側になるようにします (図B)。逆ではうまく取り付けられません。

支柱直径が43ミリ以下の場合、添付の樹脂製シムを先に支柱に取り付け、その上からクランプを巻きます (図C)。

シムには方向性があります。2本のレールがある方が1本側アームの方になります。



(図B)

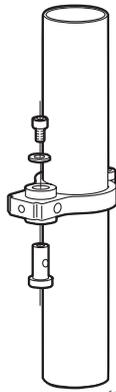


シムをはさむ

(図C)

**3**

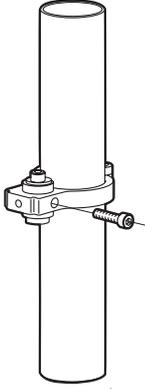
ピボットピンをクランプの下側から挿入し、上側から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトをねじ込んでピンが落ちないようにします。(図D)  
ここではまだ仮止めで構いません。



(図D)

**4**

ピボットピンを指先でつまんで回転させ、側面の孔とピボットピン上のネジ孔とを揃えてから、クランプ締め付けボルトをねじ込みます。(図E)  
ここでもまだ仮止めです。

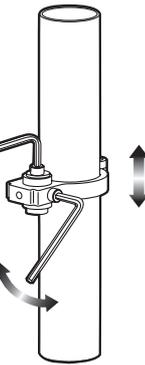


(図E)

**5**

クランプの高さや角度を決めたら、まず側面のクランプ締め付けボルトを締め込みます(図F)。(締め込みトルク：3N.m)

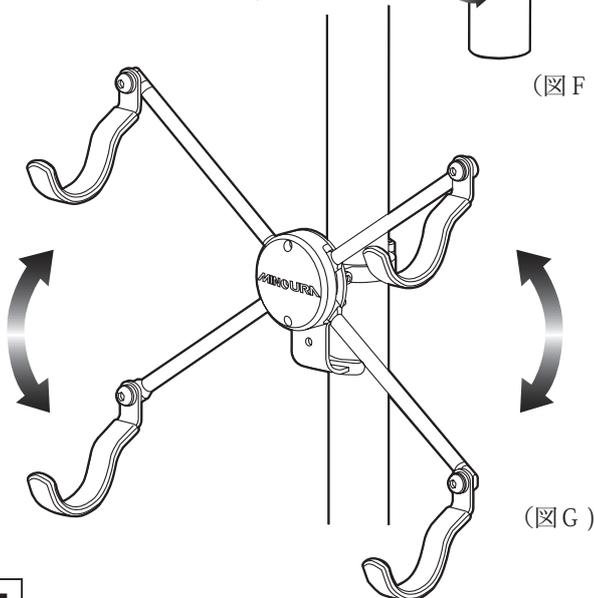
続いて上側のピボットピン固定ボルトも締め込んで完全に固定させます。



(図F)

**6**

搭載する自転車のフレームサイズや形状に合わせて、アームは片方ずつ上下各 35° の範囲で角度を変えることができます(図G)。



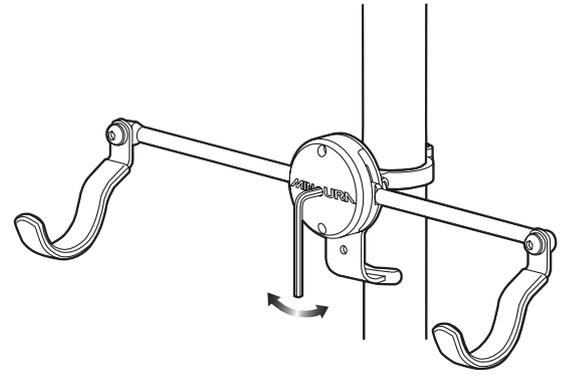
(図G)

**7**

アームの角度を変えるには、まずクレードルキャップ中央の孔に M5 六角レンチを差し込み、中にあるアーム連結ボルトを緩めます。(図H)

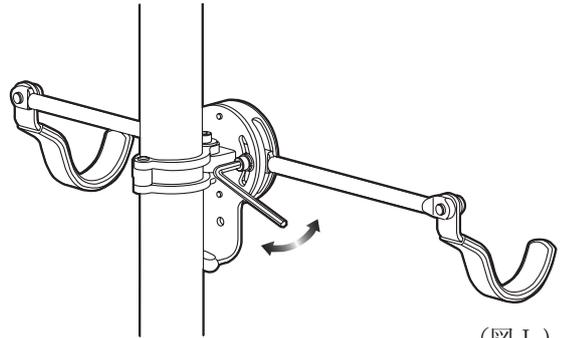


アーム連結ボルトは緩めるだけです。外してしまわないでください。

**8**

(図H)

各アームの裏側にある角度固定ボルトを緩め、アームを動かして角度を変えます。  
調整が終わったら再び固定ボルトをしっかりと締め込んでおきます(図I)。



(図I)



アームを両方とも水平より上げた状態で自転車を搭載することはお勧めできません。  
荷重がより多く掛かる方が、必ず水平よりも下になるようにしてください。



角度調整後にボルトをしっかりと締め付けておかないと、使用中にアームが垂れ下がってきてフック間隔が狭まり、最悪の場合フックから自転車が外れて脱落する恐れがあります。

## フックのフレームへの色移りについて

自転車のフレームの表面処理によっては、フックと接触している部分が黄変するなどの色移りが起きることが稀に起きます。特に白色などの淡色のフレームでは目立ってしまいます。  
弊社でもこの問題を解決しようとさまざまに研究してきましたが、現時点ではこれといって決定的な解決策が見つかっておりません。  
この問題を防止するためには、フックとフレームとの密着を避けることが有効です。  
すなわち、フックの内側にバーテープ片などを貼り付けてみたり、あるいはフック全体を包帯などのようなもので巻いてしまうことが効果的です。  
ご迷惑をお掛けしますが、自衛のほどをよろしくお願いたします。

## お問い合わせ先

株式会社 箕浦

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

Phone (0584) 27-3131 / Fax (0584) 27-7505

minoura@minoura.jp

日本製